

平成22年度第3回海老名市外部評価委員会 結果報告

日 時 平成22年 9月13日 (月) 13:30 ~ 15:20

場 所 附属棟C会議室

出席者 (外部評価委員会) 委員12名
(海老名市) 事務局5名

【市長室長、市長室次長、市長室参事兼政策経営課長、主査、主事】
傍聴人なし

委員会概要

1 開 会

司会：柳田参事兼課長

2 海老名市外部評価委員会委員長あいさつ

- 台風が過ぎ、やっと少し暑さが峠を越えたかなと実感されるほどの本当に暑い夏だったと思います。まだ、暑さも残る中、本日お集まりいただき大変ご苦労様です。
- 前回の委員会におきまして、委員の皆様からいただいたご意見や外部評価結果のコメント等の修正した結果を踏まえ、事務局で外部評価結果報告書案がまとまったようです。
- 本日は、報告書案を皆様にご覧いただきまして、皆さんからご意見等を頂戴しながら、当委員会として結論を出したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

3 議 題 【議長：海老名市外部評価委員会委員長】

- (1) 平成22年度外部評価結果報告書について

<平成22年度 外部評価結果報告書>

【審議結果】 会議結果を踏まえた修正案の確定を事務局へ一任することです承

【補足説明】 柳田参事兼課長

- 1頁の「はじめに」及び6頁から9頁までの「外部評価全般に係る総括意見」については、第2回委員会で委員の皆様から出された修正意見を踏まえて、事務局で修正を行い、両修正案をメール等により委員の皆様へ事前確認をしていただいた。
その結果、さらに再修正の意見等をいただいたので、その内容をもとに、改めて「はじめに」及び「外部評価全般に係る総括意見」の修正を行い、本報告書にある内容で整理している。
- 12頁以降については、外部評価結果のコメント等の修正した結果をまとめたものである。

【「外部評価結果報告書」6頁から9頁まで説明】 島津

【意見等】

□ 委員

<質問>

- 1頁の「はじめに」で、今年度の外部評価が実績を評価する事後評価であることがわかる表現を盛り込まなくてよいのか。

<回答>

柳田参事兼課長

- 外部評価をはじめ、海老名市の行政評価はこれまでも前年度の事業実績を対象に評価（事後評価）を行ってきた経緯があり、それは今年度も変わっていないので、特に「事後評価」という用語は出てこない。
ただ、1頁5行目「海老名市が平成21年度に実施した53の主要事業を対象に・・・評価・検証を行いました。」との一文で、今回の外部評価も「事後評価」として事業を評価していることを表現している。

⇒ 1頁の「はじめに」 了承

□ 委員

- 市の事業に対し外部評価（市長へ提言）したことによる変化を求めるためにも。市からの回答期限（時間軸）を明記してはどうか。
⇒ 市としても、事業の内容によっては対応しやすいあるいはすぐにはできない等があつて、1ヶ月・2ヶ月を期限に回答するのは難しいので、適切な時期に事業の各担当部署から回答されることを期待する旨を追記する。

- 「総括意見5」について、できるだけ早くに評価シートの大幅なフォーマットの改善が図れるよう、文中に「早急な」という表現を盛り込んではいかがでしょうか。

⇒ 採用（「外部評価結果報告書」9頁修正）

⇒ 6頁から9頁までの「外部評価全般に係る総括意見」 了承

□ 委員

- 別冊として「意見集」を作成しており、これが詳細資料になっていることから、報告書11頁の中表紙にある「詳細資料」の用語は削除してよいのではないかと。

⇒ 採用（「外部評価結果報告書」11頁修正）

⇒ 10頁以降の内容 了承

<平成22年度 グループ評価会議 事務事業別意見集>

【審議結果】 会議結果を踏まえた修正案の確定を事務局へ一任することです承

【全体説明】 島津

- 「(仮称)平成22年度 外部評価結果意見集」の原案を事務局において作成して、グループ別に内容をメール等により委員の皆様へ事前確認をしていただいた。

その結果、原案に対し意見等を再度いただいたので、その内容をもとに、事務局で修正を行い、本意見集にある内容で整理しております。

【意見等】

□ 委員

- 「〇〇意見集」というタイトルでは、ただ単に多くの意見を寄せ集めた参考資料という印象が強く、当該資料が外部評価結果をより詳しくした評価資料であることを考えると、「〇〇意見集」のタイトルは適さないのではないかと。

□ 委員長

- 今回の外部評価は、現状継続や見直し拡大といった評価項目ではなく、本資料に掲載される「評価過程で各事業に出した具体的意見」が、外部評価委員会としての真の評価であることを勘案して、タイトルの「〇〇意見集」を「〇〇詳細評価」としてはどうか。

⇒ 両意見採用（意見集のタイトルを「事務事業別詳細評価」に修正）

□ 委員

- 当該資料は、グループ別に評価した事業ごとに整理されているが、外部評価結果報告書（3頁から5頁まで）の外部評価対象事業一覧にある順番に揃えた整理の方が参照しやすいのではないか。

□ 委員

- グループ別にしないで事務事業コード順に整理するのであれば、当該資料のタイトルにある「グループ評価会議」の用語を削除してよいのではないか。
⇒ 両意見採用（詳細評価の内容をグループ別にせず、事務事業コード順に再整理するとともに、表紙の「グループ評価会議」及び各頁にあるサブタイトルを削除）

□ 委員

- 別々に作成している「報告書」と「意見集」を一冊にまとめてはどうか。

□ 委員

- 「意見集」が「報告書」の詳細評価資料になっているのに、これらを一冊にしてしまうことで、「報告書」と「意見集」の内容を見比べることができなくて（同時に見られなくて）逆に不便になると思う。

□ 委員長

- 「報告書」と「意見集」の内容をリンクさせながら、事業の評価結果を見比べることができるよう、また、これまでの評価結果のまとめ方等も汲んで、現状どおり、「報告書」と「意見集」は別々のままでよいのではないか。
⇒ 別々のままで良いとの意見が多かったので、現状のまま別々とする。

□ 委員長

<質 問>

- 外部評価結果の市長報告について、その段取りはどのようになっているのか。

<回 答>

① 二見市長室次長

- 10月上旬の市長の日程を勘案し、10月7日（木）の午前あたりを予定したい。
⇒ 委員長をはじめ各委員の予定を確認した結果、10月7日（木）午前10時から「第4回海老名市外部評価委員会（市長報告）」を開催することが決定

② 柳田参事兼課長

- 10月7日（木）の会場等については、後日開催通知を各委員宛に送付する。
その際、本委員会でもいただいた意見・修正を反映した報告書等も紙ベースで送付するので、10月7日までの事前確認をお願いしたい。
- 委員長から報告書等をベースに市長へご報告いただき、その後に市長からごあいさつをいただいて、委員の皆さんとの懇談する時間を設けたいと考えている。

(2) その他（県内近隣市行政評価実施状況について）

<平成 22 年度 県内近隣市行政評価実施状況>

【報告結果】 改訂フォーマット案を策定した上で、外部評価委員会にも提案し精査

【補足説明】 柳田参事兼課長

- 5自治体（横須賀市など）の「事務事業評価（外部評価）」欄に「事業仕分け」の区分を記載しているが、すべての自治体が継続的に事業仕分けを行っているのではない。現時点で調査したところ、事業仕分けを過去に行っている、今年度に行っている、これから行う予定にある自治体について、「事務事業評価（外部評価）」欄に「事業仕分け」の区分を記載している。

【「県内近隣市行政評価実施状況」説明】 島津

【意見等】

□ 委員

- 各市の行政評価のやり方として、パッケージシステムを活用したり、エクセル等を用いた自己方式で実施したりとあるが、一番重要なのは、どんな情報に基づいて、どんな評価をするのか、評価を行う行政がシステム構築をしっかりと行った上で評価を実施することではないか。自分たちの考えに沿ったフォーマットで評価を行おうとすれば、結果的に「自己方式」になっていくのは当然だと思う。
- 行政評価も何年も継続していれば、様々な改善点も出てくるわけで、そういった改善に対し、やはり「自己方式」の方が融通のきいた対応がとれるのではないか。

□ 委員

<質問>

- パッケージシステムを導入する自治体について、海老名市と何か違いはあるのか。

<回答>

島津

- 財務会計システムと連動しているか連動していないかの違いがある。
例えば、海老名市（富士通）の場合は、行政評価システムと財務会計システムが連動していないが、座間市（日立）や大和市など（ジャパンシステム）の場合は、行政評価システムと財務会計システムが連動している。
- この財務会計システムと連動した行政評価システムを導入しているどの自治体も、実施計画事業と予算事業を一对一の関係になるよう整理してから、評価システムを導入している。

□ 委員

- パッケージシステムを活用するにせよ、エクセル等を用いた自己方式で実施するにせよ、まずは、行政評価のシステム設計をしっかりと行うことが重要ではないか。

□ 清水市長室長

- 実際に評価を入力する個々の職員が、行政評価用のデータに加えて、実施計画用のデータや予算用のデータにも別に入力を行っている現状がある。このような事務負担を軽減するために、市長からも実施計画事業と予算事業を一对一の関係に整理するよう指示されているので、より広い意味で事業体系を合理化し、目的に合った評価の仕組みに変えていきたいと考えている。

□ 柳田参事兼課長

- すでに、行政評価事業と実施計画事業の一对一の整理は完了しているので、その整理を予算事業にまで延長しながら、費用対効果等の面も考慮して、エクセル等を活用した自己方式による評価システムを構築していきたいと考えている。

□ 委員

- パッケージシステムから自己方式の評価システムに切り替えていく考えには賛成である。パッケージシステムを導入すれば、職員はシステムに振り回されてしまう。こういった点や費用対効果等をトータル的に考えると、やはり今後は、自己方式で行政評価システムを運用するのが効率的だと思う。

□ 委員

- 評価システム全般に係るこれまでの反省を踏まえて、まずは、行政内部の視点で新しいフォーマット案を策定し、その上で外部評価委員会にも提案していただき、その案について外部の視点による精査等も行っていけば、より良いフォーマットができると思う。

□ 委員長

- 近隣市の行政評価実施状況等を参考にしながら、新しいフォーマットを検討していただき、せっかくやっている行政評価（担当部課評価、内部評価、外部評価）の成果が最終的に市民へフィードバックされていくことに絡むようなフォーマットに改善されることを期待したい。

4 閉 会（柳田参事兼課長）